

2020年度「環境過敏症分科会」活動計画

1. 背景と目的

近年、世界的に環境過敏症（環境不耐症）と呼ばれる健康障害を訴える人の急増が問題になっている。環境過敏症とは、通常では問題にならないような身の回りの微量な化学物質（タバコ煙・化粧品・医薬品・殺虫剤・芳香剤等）、生物的要因（カビ・ダニ・花粉等）、物理的要因（音・光・電磁波等）により、多器官に多彩な症状が現れる健康障害の総称であり、その病態は科学的に不明なことが多い。代表例はシックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁過敏症であり、これらの健康障害は相互に密接な関係があると共に、アレルギー疾患とも密接に関係していると考えられている。また、環境過敏症は生活習慣病同様に、生活環境中の様々な環境要因が、遺伝要因、身体要因などと複雑に絡み合って発症する健康障害ではないかと指摘されている。そのため、その病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立に関しては、幅広い専門分野の研究者が情報を交換し、共同研究を行いながら、試行錯誤で検討する以外ないとする。

本分科会の目的は、日本における環境過敏症患者の実態を解明し、世界の研究者と情報交換しながら、科学的に未解明な環境過敏症の病態解明、診断基準の確立、治療法・予防法の確立をめざすための基礎的研究を行うことである。

2. 活動計画

- 1) 学術集会では、各メンバーの日ごろの研究成果を発表し、意見交換を行う。
- 2) 室内環境学会 環境過敏症分科会と連携をとりながら、双方の学会の研究がより充実するように活動する。
- 3) 両学会の学術集会時以外にも定期的に会合（web会議）をもち、テーマを決めて研究者同志で学際的な意見交換を行う。また、研究費を獲得し共同研究ができるようにする。
- 4) メーリングリストを通して、環境過敏症に関する基礎的な知識・情報・文献および現状に関する調査結果などの情報交換・共有を行い、メンバーが分担して整理する。
- 5) 1年間の活動内容をまとめて、翌年の両学会の学術集会時に発表する。
- 6) 社会貢献活動として、本分科会の研究成果を、“専門家向け環境過敏症発症予防に関する学際的な報告書・書籍および“市民向けの環境過敏症発症予防対策マニュアル・書籍”を作成して公開することをめざす。また、環境過敏症に関する有益な書籍の普及活動を行う。

3. 分科会メンバー

代表：北條祥子，副代表：水城まさみ，黒岩義之

幹事：角田和彦，加藤貴彦，鈴木高弘，平久美子，徳村雅弘，中里直美，乳井美和子，黄琳琳，水越厚史，渡井健太郎

メンバー（アイウエオ順）

相澤好治（北里大学名誉教授），青木真一（秋田協立歯科医院），池田耕一（日本大学），石川哲（北里大学名誉教授），岩崎由美子（総合地球環境学研究所），上田昌文（市民科学研究室），上田厚（NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワークセンター），内山巖雄（京都大学名誉教授），大澤 稔（東北大学病院），奥村二郎（近畿大学），小倉英郎（高幡会大西病院），角田和彦（かくたこども&アレルギークリニック），加藤貴彦（熊本大学医学部），木村一黒田純子（環境脳神経情報センター），黒岩義之（帝京大学医学部附属溝口病院），近藤加代子（九州大学），坂部 貢（東海大学），鈴木高弘（東北大学），鈴木珠水（帝京大学），平久美子（東京女子医科大学），高塚俊治（岡山駅前歯科診療所），高野裕久（京都大学），土器屋美貴子（大分大学），東門田誠一（尚絅学院大学），徳村雅弘（静岡県立大学），中里直美（国際医療福祉大学熱海病院），西影京子（よこはまにしかげ小児科・アレルギー科クリニック），乳井美和子（そよ風クリニック），黄琳琳（台湾正修科技大学），黄友莉（熊本大学医学部），北條祥子（東北大学），星野陽子（足利市立北郷小学校），松井孝子（秋田大学），宮田英威（東北大学），宮田幹夫（そよ風クリニック），水城まさみ（（独）国立病院機構盛岡医療センター），水越厚史（近畿大学），柳沢幸雄（東京大学名誉教授），山國 徹（東北大学），吉田貴彦（旭川医科大学），吉野 博（東北大学名誉教授），渡井健太郎（（独）国立病院機構相模原医療センター）